

## 平成 29 年 9 月総務企画委員会 議事概要

H29. 9. 20 作成

日 時：平成 29 年 9 月 19 日（火） 18：02～18:39

会 場：建築士会会議室

出 席：

（業務執行理事兼委員長）芝 京子 （副委員長）山成 芳直

（委 員）伊藤 誠一、長田 喜樹、加藤 清、菊嶋 秀生、玉野 直美、沼田 有二、  
畠 宏好、村島 正章、八重野みどり

オブザーバー：須藤専務理事

### <確認事項>

#### 1 前回(7/18)議事録の確認【資料1】

- ・異議なく了承。

### <協議事項>

#### 1 委員会等のあり方について(委員会規程の見直しに向けて)【資料2】

- ・委員から、委員会のあり方に係る論点(メンバー交代、青年委員会卒業者の活躍の場等)や現状(過去10年の委員会在籍者総数は250名、毎年度110～130名の会員が所属し、活動を離れても退会率は低いが高齢化が進行等)を説明し、今後のあり方の議論を踏まえて規程の再整備を検討したい旨を提案。参考資料として現行の10委員会規程を提示。

(質疑)

\*なぜ委員会が人出不足になるのか？

(委員)・副会長をトップとする会員増強WGでも、委員会の実態は話題に。例えば、複数委員会を掛け持ちする委員がいないと人数が揃わない、支部からの出向状況にバラつきがあり人をほとんど出せていない支部もある等。委員会の数が多すぎるのではないかと、との指摘も出た。

(委員長)・長年にわたって形成された支部の体質が原因で、今一気に変えるのは容易ではないと思う。

(委員)・青年委員会の委員数が急増し、今回大量の卒業者(9名)が生じた背景には、関ブロ青年協大会の開催のためのスタッフ確保という動機あり。

- ・関ブロは終わったが、卒業メンバーは開催に奮闘してくれた会員がほとんど。こうした人材は士会にとって貴重な存在と思うが、自分から「〇〇委員会で引き続き活動したい」と要望できる仕組みがない。逆に「うちの委員会で活躍してほしい」というオファーがあれば、そこに移って士会活動を継続しやすいのではないかと。

- ・いずれにしても、青年委員会は、新入会員が士会活動を気軽に体験できる場になっている。まず、2年程度でもいいから青年委員会に所属して活動に慣れ、さらに自分の活動したい委員会に転進するといったルートが確立できればと思う。

(委員)・10年前の前回関ブロ青年協大会では、青年委員会所属メンバーとして活動したが、たしかに委員会卒業後は本会との縁が切れた。

(委員長)・本会委員会への参加は、事実上、支部の推薦がないと実現しないような雰囲気になっているが、支部長としては、本人からいきなり「〇〇委員会に行きたい」と要望されても逡巡するだろう。委員会から各支部に委員の派遣要請があり、内々に話が通じていて本人意向と合致するようなケースであれば、スムーズにいくだろう。

(加藤委員)・本会委員会の在籍者は会員総数の1割強というデータが示されたが、支

部役員も似たようなもの。支部会員総数の1割程度の人数しか動けないのが実情だ。

- ・本会委員会への参加は、支部によっては交通利便性の点で負担にもなる。そんな意味でも、支部から積極的に出向させることは簡単ではない。
- (副委員長)・横浜支部は支部レベルでも活動が活発と評価してもらっているが、実際のところ、支部役員を務める会員の疲弊感は、他支部と同様強い。
- (委員)・アクティブな支部会員でも、本会委員会の活動までタッチする余裕はないというのが本音。

\*新旧交代を図るには？

- (副委員長)・横浜支部の規程を再読してみたら、引き継ぎに関する規定がちゃんと用意されていた。円滑な引き継ぎや混乱回避のための仕組みはあるのだから、必要な新旧交代は進めたいところ。
- (委員)・一般会員が、ある委員会に参加したいと思っても、道がないのではないかと。人的なコネがないと入れないという印象が強い。
- ・役員改選時期にあわせて、委員会構成員をいったん白紙に戻すぐらいの措置を講じないと人事の固定化は避けられない。若手の入会者に対しては、委員会への参加を強く方向づければ、一つの動機づけになるかもしれない。
- (委員)・支部レベルでの入会勧誘活動は、一般の支部役員には正直いって荷が重い。支部長・副支部長の役割になるが、彼らも多忙で十分対応できていないと思う。
- (委員)・そもそも士会では、若手で入会すれば青年委員会に加わるのは当たり前、といったカルチャーなのか、その辺が見えない。
- ・また、支部や他委員会からある委員会に会員を派遣する、という仕組みが、どのような位置づけに基づくものか、理解しづらい。
- (専務理事)・定款上の根拠があるわけではない。定款に掲げた諸目的を実現するために各委員会が設けられているという原点に戻って、人事のあり方を考えるほかない。
- (委員)・どんな場合でも、支部の推薦が必要になるのか。
- (委員)・制度上は不要だが、他に適切な委員確保ルートがないので、支部推薦が慣例化している。
- (委員)・各委員会にあえて若手会員を加えるべき必要性は？
- (委員)・個人的には高齢化が進み以前に比べて活力が落ちたといった印象はない。
- (委員)・高齢の会員も75~80を超えれば撤退する人が増えるだろう。一方、青年委員会卒業の45歳を超えると、それぞれの職場で責任ある地位・仕事を委ねられるから士会活動への注力は難しくなる。
- (委員長)・任期の規定の整備等具体的な課題もあるが、引き続き議論を続けていきたい。<なお、次の議題までの合間を活用して、委員長から各委員へ委員委嘱状の交付>

## 2 賛助会講習会（BIMの活用）について

- ・担当委員から、日程は10月23日(月)18:00~19:00 建設会館2階講堂と決定した旨を報告。

(質疑)

- (委員長)・士会会員以外の受講は不可か。
- (専務理事)・賛助会員の士会会員への働きかけという面から、会員限定にしている。
- (委員)・他の賛助会員への刺激という意味で、今回の企画を賛助会員間に周知する必要はないか？
- (専務理事)・掲示板で告知済みであり、別途周知は考えていない。

## 3 平成30年賀詞交歓会について

- ・担当委員から、日程・場所案(平成30年1月18日(木) 18:00~19:50 ナビオス横浜)を説明。H28、H29の参加者数・収支実績もあわせて報告。

- ・専務理事から、H30の支出想定に関して、料理代は参加者数の8割相当ではなく実数で請求される見込みであること、しかし士会負担分の上昇は予算でも見込んであるため、例年どおり4,000円会費で開催可能であることの補足説明。  
→異議なく了承

<報告事項>

(1) 派遣委員会での活動状況について

(委員)・情報広報委員会では、会員名簿の作成期限目標を29年度末としたことを報告(名簿記載事項の調査票をH30年度会費請求の会員向け通知書に同封し、郵送経費の削減を図る由)。

(2) 重点事業・新規事業(シニア事業等)の状況について

(委員)・シニア事業の進捗状況について報告。

(専務理事)・相談事業、会員増強・退会抑制事業、既存住宅インスペクションについて報告。なお、事務所登録なしの資格者が業務を行う際の協力事務所については、既に複数の事務所に打診済みとのこと。

(3) その他

(委員)・1級製図試験のための施設見学会は、入会案内活動の貴重な機会でもあったが、今年は適当な物件がなく開催断念。このため、青年委員会としても登録申請時の案内活動に注力することとしている。

(専務理事)・2級の合格発表が案内活動のスタートとなるが、今年は京都での全国大会直後の12/11がスタートとなる見込み。よろしく協力のほど。

(委員)・活動交流会は11月の大和市開催で各支部を一巡する。見直し論議もあるようだが、開催の意義は依然として存在すると思う。継続実施に向けた議論をお願いしたい。

<その他>

(1) 次回以降の委員会について

平成29年10月17日(火) 18:00～

11月21日(火) 18:00～

12月19日(火) 18:00～

<以上>